

事業革新研究会ニュース

中小企業診断協会大阪支部
事業革新研究会



< 掲載記事について >

事業革新研究会ニュースでは、事業革新の記事を主体として広く読者の参考となる記事を掲載します。各記事は下表に示す分類項目の区分記号順に掲載しています。

区分	分類項目
A	事業革新事例
B	新商品、新技術
C	業界事情
D	海外事情
E	その他

連絡先：事業革新研究会ニュース編集事務局長 橘 善輝 info@sigma-support.com

< 目 次 >

区分	表 題	氏 名
A	経営革新の事例（第4回）K機械株式会社	入江 廣
A	国内がダメなら海外で---ワタベウェディングの海外戦略	橋本 明洋
B	予想外の効果発見	中上 義春

区分	A	経営革新の事例（第4回）K機械株式会社	氏名	入江 廣
<p>当社は、昭和30年設立から55年間、アスファルトフィニッシャ等の道路舗装・補修機械を製造・販売して、顧客である道路施工各社から、好評を博して今日迄業務を継続してきました。</p> <p>現在、日本の産業を構成する道路施工各社に対して、道路施工時に於けるCO2削減を実施するように要求されています。そこで当社として、主要製品であるアスファルトフィニッシャを電動アスファルトフィニッシャに開発・商品化する事によって、本製品を購入・使用する道路施工各社が、CO2削減に寄与する道路舗装を実現する事に繋がると判断しました。</p> <p>従来のアスファルトフィニッシャは、油圧動力伝達構造であるため、低効率で燃料消費が過度になり、ランニングコストがあがり、CO2削減に寄与できません。また、スクリードの加熱をLPガス燃焼の下向きにしているため、舗装作業の安全面において、潜在的危険リスクがあります。</p> <p>今回開発する新製品は、電動式であり、日本が世界に誇る発電機・インバータ及びモータを用いているので、高効率でランニングコストを低減し、アスファルト舗装時のCO2排出量を大幅に低減し、環境の改善に寄与します。またスクリード加熱を電熱加熱することにより、舗装作業の安全効率が高まります。電動アスファルトフィニッシャは世界初で市場に無いものです。本開発・商品化に伴う知財関係成果として、2件の商標取得と約10件の特許出願を予定しています。また商品化の折には、「エコマーク」の申請も予定しています。</p> <p>当社は、今まで世界市場にない電動アスファルトフィニッシャの商品化という経営革新をすることにより、国内市場のシェアをアップする他に、殆ど売上のなかったアスファルトフィニッシャの世界市場へのチャレンジすることも可能となります。</p>				

区分	A	国内がダメなら海外で---ワタベウェディングの海外戦略	氏名	橋本 明洋
<p>京都に本社を置くワタベウェディングはウェディング関連サービスを提供している。主な事業は海外挙式サービス、国内挙式サービス、ウェディングドレス製造販売、結婚式の衣装と写真撮影等の総合サービス事業である。</p> <p>国内のウェディングサービスは少子化、晩婚化の影響により、団塊ジュニアが結婚のピークを迎えた2001年（80万組台）から婚姻件数は減少の一途を辿っている。</p> <p>海外、特に中国のマーケットは年間約800万程度の婚姻件数があり、今後も510%の成長が見込まれる。</p> <p>ワタベウェディングは従来からドレス、タキシード、写真アルバム等の製造拠点を中国に設けてきたが、中国人に対しても総合的なウェディングサービスを提供しようとしている。</p> <p>中国では挙式概念がないため披露宴は自宅やレストラン等で行うケースが多いが、経済成長に伴い、フォーマルな高級ホテルでの結婚式ニーズも今後、高まることが予想される。また中国人の海外ウェディングの需要増を見込んで、香港や台湾にも進出している。</p> <p>ワタベは「感動を提供することに国境はない」との考えで国毎に様式が異なるウェディングに「マイスタンダード」を定着させ、日本でのノウハウを海外に移植して、成功している。</p> <p>また、中国、ベトナムの従業員の会社に対するロイヤリティは非常に高い。</p> <p>その理由の一つが「論語」をベースにした従業員教育である。</p> <p>日本での事業でもそうであるが、理念教育を通じた人材育成こそが経営の根幹であるというのが経営陣の持論である。</p> <p>「マイスタンダード」と「価値観の共有」がワタベのグローバル経営の成功の秘訣である。</p> <p>出典：吉川尚宏『ガラパゴス化する日本』（講談社、2010年）</p>				

区分	B	予想外の効果発見	氏名	中上 義春
<p>この頃は多くのトイレがきれいになった。株式会社TOTO、この企業の技術によるところも少なくない。あの特有の匂いもないし、無水トイレも現れた。この企業のホームページを覗くと、ハイドロテクト(光触媒超親水性技術)の特許取得状況や本技術のライセンス方針が掲載されている。近年では、この光触媒技術はビル窓ガラスの防汚や室内の抗菌・消臭等、生活空間の中では、大活躍の万能機能を発揮している。</p> <p>この主要原料である酸化チタンの光触媒機能は1967年に東京大学大学院生であった藤嶋昭氏により発見された。当初の用途としては水を分解し水素を作り出す技術として研究が進められたが、水素発生の効率が悪く、結果的にこの目的では実用化できなかった。</p> <p>その後、この触媒に有機物を完全分解する機能が発見され、この機能のTOTOとの共同研究により、1995年に「超親水性機能」が発見された。紫外線を当てると酸化チタン表面が超親水性となり、汚れを容易に洗い流せたり、ガラスに曇りができない等の実用的効果が大きい機能素材となった。(株TOTOホームページ、イノベーション創出のための取り組み事例集(経済産業省)より)</p> <p>本事例でも見るように公的研究機関や大学等で開発・発見された技術シーズは、初期目的では期待される効果が発揮できず、お蔵入りとなっているケースも少なくない。実業的な機能を求める応用研究の俟たれる分野だ。近年では、そのような技術が多く公開され、入手も容易なので、新規開発のヒントを得たり、開発の迅速化を図る目的で、それら技術の導入・共同研究を検討することも新商品・新技術開発の主要な手法となる。(独)工業所有権情報・研修館が運営する「開放特許情報データベース」は、43,000件近くの解放された特許が登録されている。上手く利用できれば大きな宝の山にも変身できる存在だ。</p>				